

米

中干し後の管理と病虫害防除対策

農業経営支援課 山村



根張りを良くし、倒伏や秋落ち防止に繋がるため、中干し後は間断かん水を行います。浅水程度に水を入れ、水が無くなっても1〜2日そのままにしておき、再び浅水程度に水を入れる作業を繰り返します。穂肥を施用する場合は、かん水し3日間は止め水で行ってください。

高温障害対策

日中の気温が35℃、夜温が25℃を超える日が続く場合はかけ流しかん水を行ってください。

高温障害の対策として、特に出穂後5〜15日に行うのが効果的です。乳白米の発生を抑えるには、夜間通水で夜の水温を下げましょう。

病虫害対策

ウンカ類防除（早生：7月下旬、中正・晩生：8月上旬）

長期残効性のある箱施用剤（フルスロットル箱粒剤など）を使用していない場合は、出穂前の防除が必要です。

粒剤…トレボン粒剤 2〜3 kg/10 a

液剤…エミリアフロアブル 1000倍

※ウンカ類は株元を好むため、株元にムラなく散布しましょう。

カメムシ類防除（1回目…出穂始め（一部の茎に穂が見え始める）、2回目…穂揃期（80〜90%の茎が出穂した時期）、3回目…前回散布の7〜10日後）

近年、茶色で大型のイネカメムシの被害が目立ちます。不稔の原因となる他、玄米の基部を吸汁するため色彩選別機で除きにくく等級低下の要因となります。不稔対策には出穂直前にも防除が必要です。

液剤…スタークル液剤 1000倍

粒剤…スタークル粒剤 3 kg/10 a

豆つぶ剤…スタークル豆つぶ

250g/10 a

フロアブル剤…エクシードフロアブル

2000倍

※粒剤・豆つぶ剤は、均一に散布し散布後7日間は落水しないでください。（自然落水は問題無し）